

中小企業景況レポート vol.75

2023.4~6

業況判断D I 4月~6月は3.2と14期ぶりにプラス

【2023年4月~6月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で8.4ポイント上昇し3.2となりました。業種別では小売業のみ業況判断D Iがマイナスとなりましたが、全業種総合では改善傾向での推移となっています。

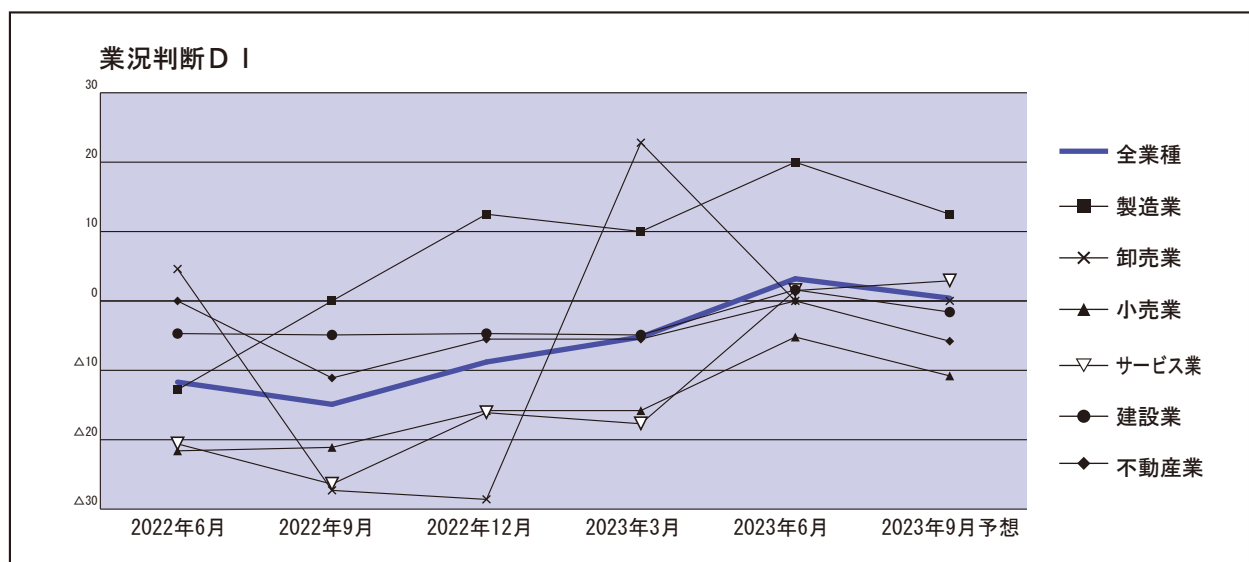
【2023年7月~9月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で2.8ポイント低下し、0.4の見込みとなっています。

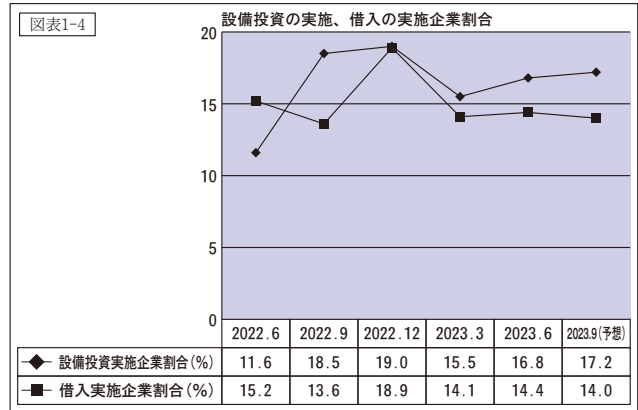
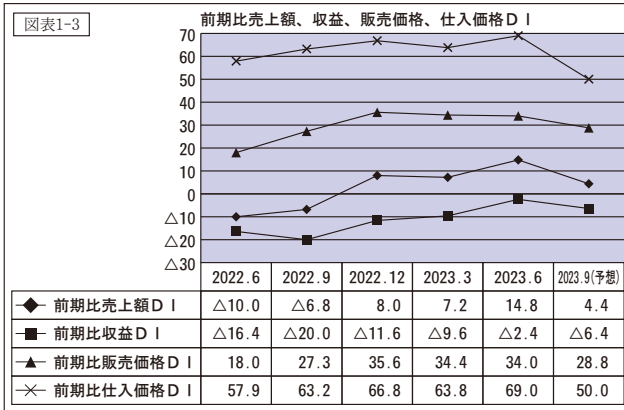
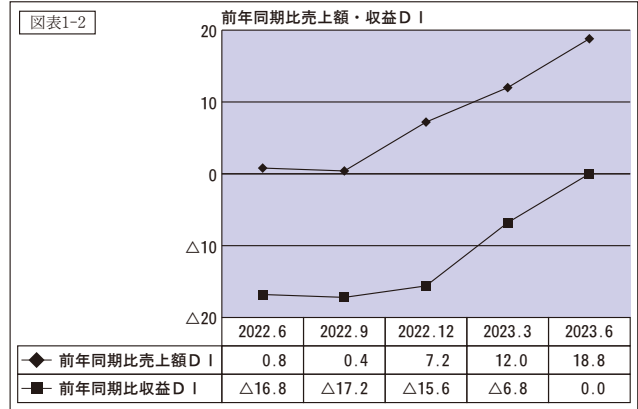
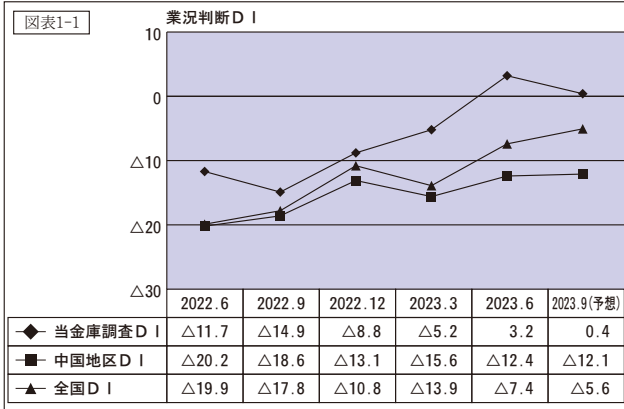
| 業種名 | 時期 | 2023年 1月~3月 | | 2023年 4月~6月 | | 2023年 7月~9月 (予想) |
|-------|----|----------------|------|----------------|-----|------------------------|
| 全業種総合 | | 5.2 | 8.4 | 3.2 | 2.8 | 0.4 |
| 製造業 | | 10.0 | 10.0 | 20.0 | 7.5 | 12.5 |
| 卸売業 | | 22.8 | 22.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 小売業 | | 15.8 | 10.6 | 5.2 | 5.6 | 10.8 |
| サービス業 | | 17.7 | 19.2 | 1.5 | 1.4 | 2.9 |
| 建設業 | | 4.9 | 6.5 | 1.6 | 3.2 | 1.6 |
| 不動産業 | | 5.5 | 5.5 | 0.0 | 5.6 | 5.6 |

景況判断の目安

D I 好調 ← 30以上 (sun icon) 10以上30未満 (sun icon) 0以上10未満 (cloud icon) △10以上0未満 (cloud icon) △30以上△10未満 (umbrella icon) △30未満 (umbrella icon) → 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D Iは3.2で14期ぶりのプラス～

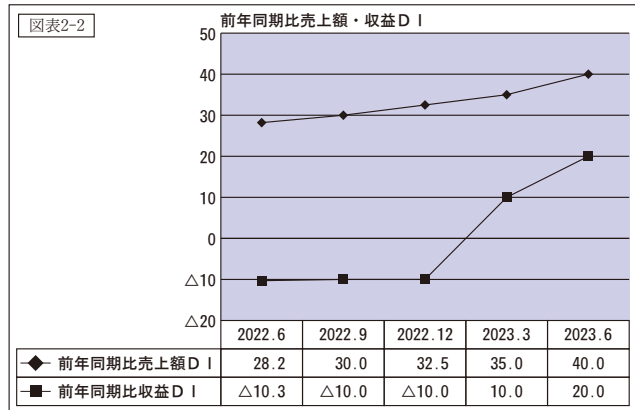
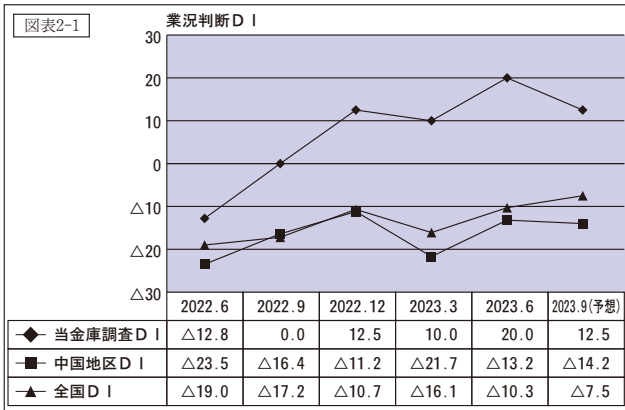
今期の業況判断D Iは全業種総合で前回調査比**8.4ポイント上昇**し△5.2→3.2となりました。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、通常の経済活動が戻りつつあることから業況判断についても改善しているものと考えられます。中国地区D I（△12.4）、全国D I（△7.4）と比較して当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間（2023年7月～9月）の予想業況判断D Iは3.2→0.4と、今回調査比**2.8ポイントの低下**予想となっています。依然として原材料や燃料費の高騰の影響が続くため、今期との比較では低下するものの、業況判断D I自体はプラス予想となっています（図表1-1）。

前年同期比売上額D Iは18.8、同収益D Iは0.0となっています。1年前と比較して売上額・収益ともに回復しており、改善傾向にあることが分かります。（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は16.8%となり、前回調査比1.3ポイントの上昇。借入を実施した企業の割合は14.4%となり、前回調査比0.3ポイントの上昇となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は17.2%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して0.4ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は14.0%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して0.4ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が53.3%（前回調査比+17.6ポイント）にのぼっており、半数以上の企業が設備投資を控える意向であることが窺えます。

製造業



景況 ～今期大幅上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは10.0→20.0と前回調査比**10.0ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは20.0→12.5と**7.5ポイントの低下予想**となっています（図表2-1）。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は「海外経済の回復ペース鈍化等の影響から、弱めの動き」との判断となっているものの、輸送用機械においては供給制約が和らぐもとの、持ち直しているとなっています。

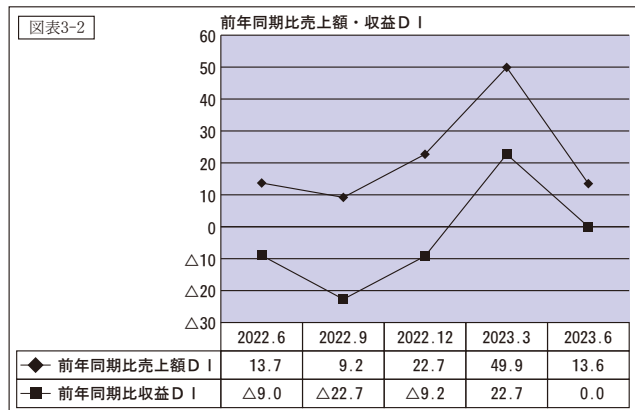
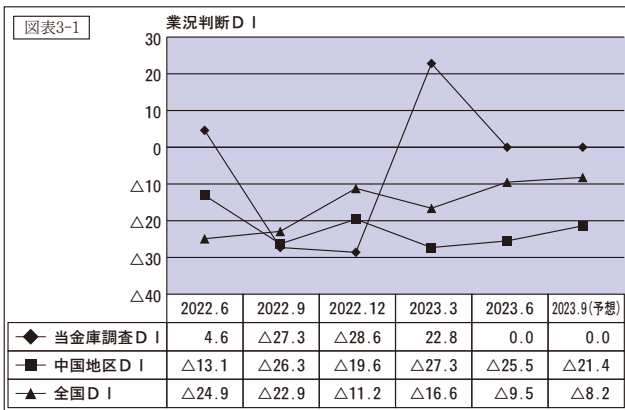
経営上の問題点において「原材料高」と回答する企業が引き続き最も多く、また「人手不足」と回答する企業が増えています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| 経営上の問題点 | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|---------|-------|---------|-------|----------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 原材料高 | 62.5% | 人手不足 | 42.5% | 利幅の縮小 | 20.0% |
| 当面の重点経営施策 | 販路を広げる | 45.0% | 経費を節減する | 37.5% | 情報力を強化する | 22.5% |
| | 人材を確保する | 45.0% | | | | |

卸売業



景況 ～今期大幅低下 来期は現状維持予想～

今期の業況判断D Iは22.8→0.0と前回調査比**22.8ポイントの大幅低下**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは0.0→0.0と**現状維持予想**となっています（図表3-1）。

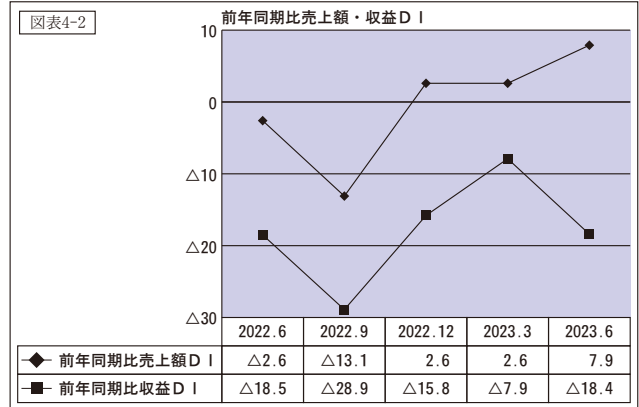
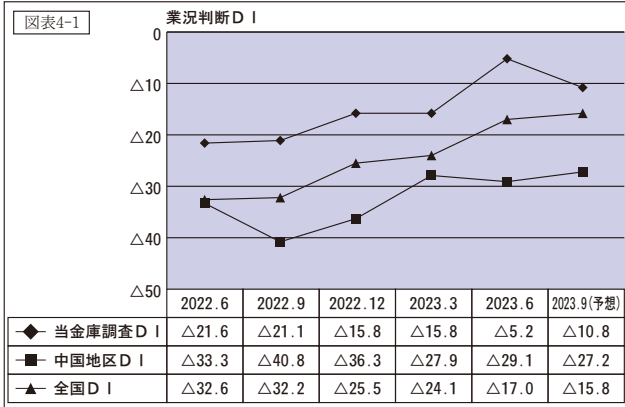
経営上の問題点としては「売上の停滞・減少」の回答が増加し最も多くなっています。それらに対応するため「販路を広げる」を重点経営施策とする企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| 経営上の問題点 | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|----------|-------|-------------|-------|----------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 売上の停滞・減少 | 36.4% | 仕入先からの値上げ要請 | 27.3% | 利幅の縮小 | 22.7% |
| 当面の重点経営施策 | 販路を広げる | 72.7% | 経費を節減する | 54.5% | 情報力を強化する | 22.7% |

小 売 業



景 況 ～今期大幅上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは△15.8→△5.2と前回調査比**10.6ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは△5.2→△10.8と**5.6ポイントの低下予想**となっています（図表4-1）。

経営上の問題点において、「同業者間の競争の激化」の回答が増加し最も多くなっています。通常の経済活動が戻りつつあり、競合他社との競争も激化しているものと思われます。

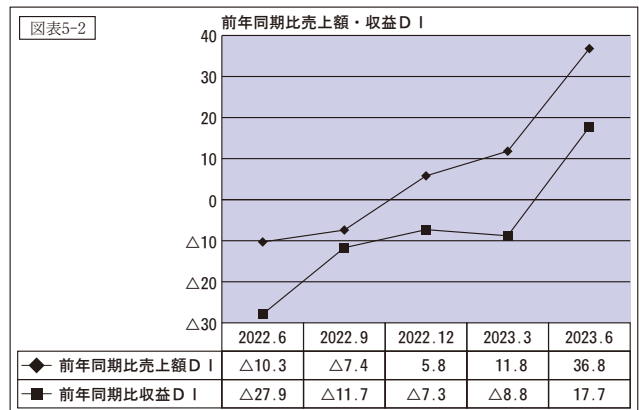
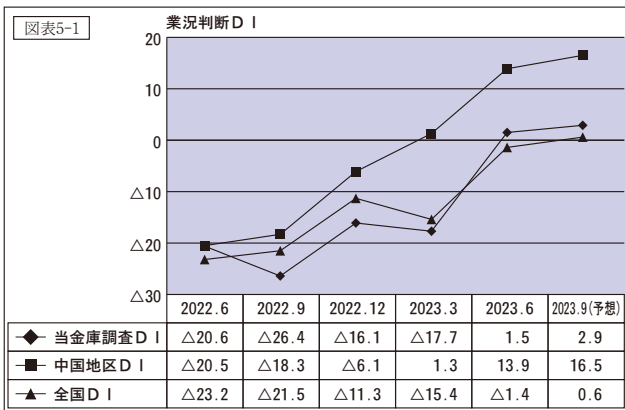
当面の重点経営施策では「経費を節減する」、「売れ筋商品を取扱う」との回答が増加しており、同業他社との差別化と利益確保を重要視している企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|------------|-------|-----------|-------|--------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 同業者間の競争の激化 | 34.2% | 売上の停滞・減少 | 31.6% | 利幅の縮小 | 28.9% |
| 当面の重点経営施策 | 経費を節減する | 52.6% | 売れ筋商品を取扱う | 31.6% | 販路を広げる | 18.4% |

サービ 業



景 況 ～今期大幅上昇 来期も上昇の予想～

今期の業況判断D Iは△17.7→1.5と前回調査比**19.2ポイントの大幅上昇**となりました。また、来期の予想業況判断D Iは1.5→2.9と**1.4ポイントの上昇予想**となっています（図表5-1）。

経営上の問題点として「材料価格の上昇」の回答が最も多くなっています。また「人手不足」の回答が増加しており、人材確保に苦慮している企業が多くなっています。

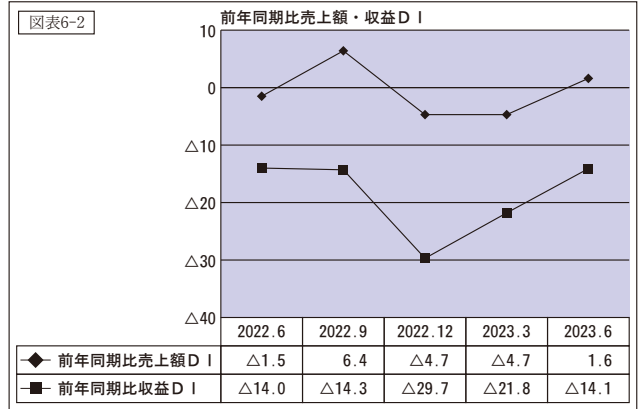
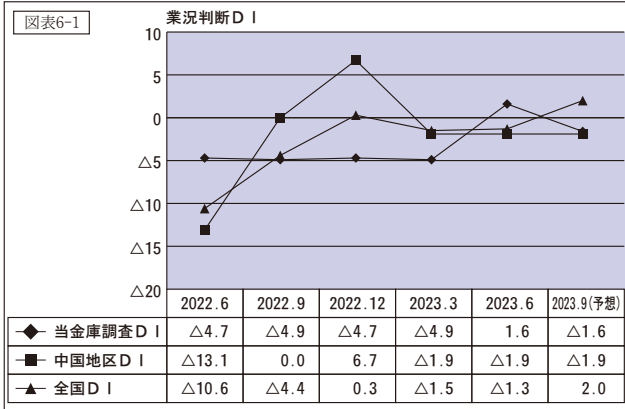
当面の重点経営施策としては「販路を広げる」との回答が増加し、最も多くなっており、売上確保のため販売対象先を増やす施策を実施・検討している企業が多いことが分かります。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|---------|-------|----------|-------|---------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 材料価格の上昇 | 36.8% | 売上の停滞・減少 | 30.9% | 人手不足 | 23.5% |
| 当面の重点経営施策 | 販路を広げる | 44.1% | 経費を節減する | 41.2% | 人材を確保する | 25.0% |

建設業



景況 ～今期上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは△4.9→1.6と前回調査比6.5ポイントの上昇となりました。また、来期の予想業況判断D Iは1.6→△1.6と3.2ポイントの低下予想となっています（図表6-1）。

経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が引き続き最も多くなっています。「同業者間の競争の激化」の回答も増加しており、それに伴い「売上の停滞・減少」の回答も増加しています。

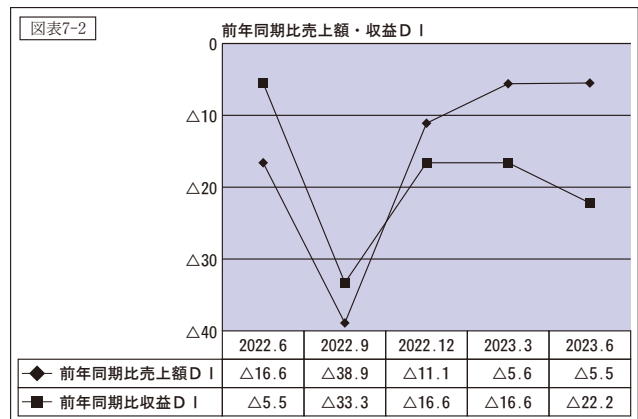
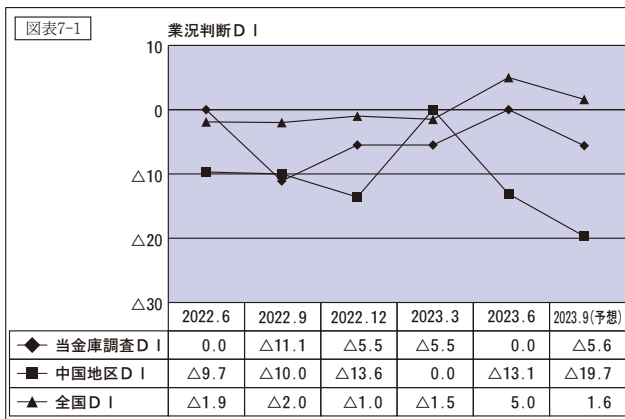
当面の重点経営施策としては引き続き利益確保のため、「経費を節減する」、「販路を広げる」との回答をする企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|---------|-------|----------|-------|------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 材料価格の上昇 | 57.8% | 売上の停滞・減少 | 37.5% | 同業者間の競争の激化 | 26.6% |
| 当面の重点経営施策 | 経費を節減する | 51.6% | 販路を広げる | 39.1% | 人材を確保する | 25.0% |

不動産業



景況 ～今期上昇 来期は低下の予想～

今期の業況判断D Iは△5.5→0.0と前回調査比5.5ポイントの上昇となりました。また、来期の予想業況判断D Iは0.0→△5.6と5.6ポイントの低下予想となっています（図表7-1）。

「同業者間の競争の激化」の回答が増加し最も多くなっており、要因として「商品物件の高騰」、「商品物件の不足」が問題点となっていることが予想されます。

重点経営施策として「情報力を強化する」との回答が最も多くなっており、同業他社との競争に打ち勝つために物件確保のための努力をしている企業が増えています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

| | 1 | | 2 | | 3 | |
|-----------|------------|-------|---------------------------------|-------------------------|-------------|-------|
| | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 | 回答内容 | 回答率 |
| 経営上の問題点 | 同業者間の競争の激化 | 44.4% | 商品物件の高騰 | 38.9% | 商品物件の不足 | 22.2% |
| 当面の重点経営施策 | 情報力を強化する | 44.4% | 販路を広げる 経費を節減する 宣伝・広告を強化する | 27.8% 27.8% 27.8% | 不動産の有効活用を図る | 22.2% |

調査先企業の声

製造業

- ・コンスタントに新商品を開発しており売上増加。人材確保が課題【モバイル関連機器】
- ・人手不足から受注量に限界があり、売上増加が難しい。原材料価格の高騰の影響も大きい。【鉄鋼業】
- ・全国の事業者とOEM、ODM契約を結び、各地の特産品を生かした商品を開発することで販路を拡大している。【菓子】

卸売業

- ・売上面では安定しているが、仕入価格高騰分について価格転嫁が進んでいないことが悩み。【建築資材】
- ・観光客が回復傾向にあり、業況改善が見込まれる。【土産・贈答品】
- ・前年比で売上減少気味。今後市場が好転することに期待している。【包装材】

小売業

- ・固定客保有しているが、高齢者層が割合の多くを占めており、今後の売上推移に不安を感じている。【額縁】
- ・イベント販売が好調。コロナウイルス感染症の影響が落ち着いてきた。【酒】
- ・学校関連の書籍販売については安定しているが、店頭販売は年々減少傾向となっている。【書籍】

サービス業

- ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、来店客は増加しているが、物価高騰による仕入高増加、電気代の値上がり等利益率の悪化要因が多く油断できない。【美容】
- ・来店客増加しつつあり改善傾向。特に団体客の予約が増加していることから今後さらなる回復に期待している。【飲食】
- ・ホームページを刷新し広告宣伝強化を図っている。教材費の値上げに伴う料金価格の見直しを実施した。【英会話教室】

建設業

- ・建築資材高騰の影響は心配しているが、受注に関しては一定数を確保できている。【木造建築】
- ・官公庁からの仕事が多く、昨年比で受注は増加している。ただし人手が不足しているため売上増加については限定的になる予想。【造園土木】
- ・現在非課税事業者であるため、インボイス制度開始後の利益面の影響を懸念している。【設備工事】

不動産業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が減少しており、仲介業務が増加することに期待している。【不動産仲介】
- ・例年並みで売上確保できているが、商品物件がかなり不足しており、情報収集に力を入れていく。【不動産販売】
- ・リフォーム代金が高騰しており、利益率悪化傾向となっている。【不動産管理】

おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

記

<商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

<商品説明>

1. 商品名
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
 - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
 - ※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
 - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
 - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
 - ・反社会的勢力に該当しない方
 - ・当金庫の会員であること
3. 資金用途
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）
固定金利
 - ・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保
不要
9. 連帯保証人
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社
株式会社クレディセゾン

以 上

調査の要領

- 1) 調査時点 2023年6月1日～7日
- 2) 調査対象期間 2023年4月～6月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断D I）を中心に分析
※D I＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格D Iについては逆）
- 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

| | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 回答企業数 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 |
| 回答率 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

従業員数

（単位：先）

| 業種 (単位：人) | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 計 | 構成比 |
|--------------|-------|------|-------|-------|-------|------|--------|--------|
| 0～9 | 23 | 15 | 32 | 50 | 49 | 16 | 185 | 74.0% |
| 10～19 | 5 | 2 | 3 | 7 | 11 | 2 | 30 | 12.0% |
| 20～29 | 6 | 4 | 0 | 4 | 4 | 0 | 18 | 7.2% |
| 30～49 | 1 | 0 | 3 | 4 | 0 | 0 | 8 | 3.2% |
| 50以上 | 5 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 9 | 3.6% |
| 計 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 | 250 | 100.0% |
| 構成比 | 16.0% | 8.8% | 15.2% | 27.2% | 25.6% | 7.2% | 100.0% | |

資本金

（単位：先）

| 業種 (単位：千円) | 製造業 | 卸売業 | 小売業 | サービス業 | 建設業 | 不動産業 | 計 | 構成比 |
|---------------|-------|------|-------|-------|-------|------|--------|--------|
| 10,000未満 | 20 | 7 | 24 | 35 | 34 | 8 | 128 | 51.2% |
| 10,000～49,999 | 17 | 15 | 13 | 30 | 30 | 10 | 115 | 46.0% |
| 50,000～99,999 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 6 | 2.4% |
| 100,000以上 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.4% |
| 計 | 40 | 22 | 38 | 68 | 64 | 18 | 250 | 100.0% |
| 構成比 | 16.0% | 8.8% | 15.2% | 27.2% | 25.6% | 7.2% | 100.0% | |

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で8.4ポイント上昇し3.2となりました。小売業のみ業況判断D Iがマイナスとなりましたが、全体として改善傾向となっています。新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、通常の経済活動が戻りつつあるものの、原材料や燃料費の高騰の影響も続いており、来期の全業種総合の予想業況判断D Iは低下予想となっています。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2023.8 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
http://www.shinkin.co.jp/okayama/
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp